

全国外大連携プログラム 通訳ボランティア育成セミナー

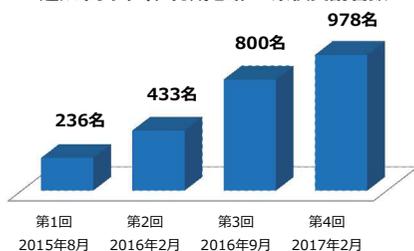
2020東京オリンピック・パラリンピック開催決定に伴い、国内においてはこれまで以上に世界大会の開催が増加し、その運営の一躍を担う通訳ボランティアの重要性は益々高まっています。全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナーでは、神田外語大学において2007年よりこれまで蓄積された実績と経験をベースにカリキュラムを組み、全国外大連合として外国語を学ぶ学生の語学力や、コミュニケーション力・主体・積極性を備えたグローバル人材を育成しています。



©第1回全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナー集合写真(神田外語大学)

セミナー開催実績

通訳ボランティア育成セミナー累積受講者数



全国外大連合人材バンク累積登録者数



言葉は世界をつなぐ平和の礎

神田外語大学

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1
<http://www.kandagaigo.ac.jp>



ボランティアセンター
 スポーツ通訳ボランティア推進室
 TEL : 043-273-1534
 FAX : 043-273-5461
 Email : sports-volunteer@kanda.kuis.ac.jp

- 学 科 : 英米語学科(通訳・翻訳課程設置学科) / アジア言語学科(中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻) / イベロアメリカ言語学科(スペイン語専攻、ブラジル・ポルトガル語専攻) 国際コミュニケーション学科(国際コミュニケーション専攻、国際ビジネスキャリア専攻)
- 大 学 院 : 修士課程 英語学専攻: MA TESOL Program 日本語学専攻: 日本語学コース / 日本語教育学コース 博士課程 言語科学専攻 (Ph. D.)
- アクセス : JR京葉線「海浜幕張」駅北口から徒歩約15分、JR総武線・京成線「幕張」駅南口から徒歩約20分

SPORTS × **LANGUAGE**

スポーツ通訳 ボランティア

スポーツ通訳ボランティア活動とは

本学の教育理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」の下、国際的なスポーツイベントに携わる機会を学生に提供することで、その実践の場において言語の運用能力や社会性を育み、そして人間性を高め国際社会に貢献できる人材を育成すること、それが神田外語大学スポーツ通訳ボランティア推進室が目指す活動です。



神田外語大学

スポーツ通訳ボランティア推進室

スポーツと言語で実現する、真の国際人。

神田外語大学体育・スポーツセンターは本学の教育理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」の下、特にスポーツにおける国際イベントの参加経験を通じ、言葉の運用実践経験や社会経験の積み重ねによって、より豊かな人間性の醸成と社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。



学校法人佐野学園
理事長
佐野 元泰

2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決まりました。本学ではこれまで国際スポーツ大会に多くの通訳ボランティアの学生を送り出し、大会運営を支えています。来日する海外選手たちとの交流で育まれる友情や連帯感はずっと平和でよりよい世界を実現する大きな手立てになると信じています。

本学は、建学理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」の下、「スポーツ通訳ボランティア」に取り組んでいます。日頃の学習の成果を発揮し、「おもてなしの心」で世界中の皆様をお迎えしてください。そして、言葉や文化を超えた交流を深め、世界平和の礎を築いてください。この経験は必ず、将来の大きな飛躍につながることでしょ。

お互いを認めあい尊重しあう、あたたかな交流が生まれることを期待しています。



神田外語大学
学生
酒井 邦弥

2020年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決定されて以来、日本全体に高揚感がみなぎっています。2007年より開始された本学の「スポーツ通訳ボランティア」は外国語大学の特性、すなわち、言語習得と運用能力の向上という教育目標の具現化と大学に求められている社会貢献を意図したものです。

スポーツとは本来、人間がより良き生のために、自ら求め自発的に行う活動のことであり、定められたルールの下で、正々堂々と競い合うことが求められます。

本学の「スポーツ通訳ボランティア活動」の目的は、スポーツイベントの単なるパイプリーヤーとなるのではなく、スポーツマンシップと人間的魅力にあふれたグローバル社会のメインプレイヤーを育てることなのです。



スポーツ通訳ボランティア
担当教員
朴 ジョンヨン

オリンピック・パラリンピックやワールドカップで代表されるように、スポーツの国際化・グローバル化は急速に進行しています。スポーツは国籍を問わず、言語・人種・宗教を乗り越え、世界の何人かに喜びと感動、そして勇気を与える力を持っています。その意味ではスポーツは世界をつなぐ平和の共通語であり、優れたコミュニケーションツールでもあります。人間にとっては、誰もが運動能力と同様に、言語能力を持って生まれるが、どのような方法でその能力を引き出し、発揮・向上させるかは大きな課題であります。

神田外語大学からは毎年、国内外で開催される国際スポーツ大会・イベントに多くの学生を通訳ボランティアとして送り出しています。参加した学生からは「学んでいる言語以外に、ほかの言語を学びたい意欲がわいた」、「外国人選手と接し、異文化理解力が深められた」など活動の充実を誇ります。

この経験を通じ、客観的な自己の言語能力に気づき、外国語学習へのモチベーションアップにつなぎ、グローバル社会で活躍することを願ってやみません。

主な業務内容

スポーツ通訳ボランティアの業務は、各イベントによって異なりますが、主に大会運営業務、海外選手団サポート、大会期間中の各国選手のアテンダント、式典・会議での通訳など、様々な場面でイベント運営に携わっています。



2007年度～2016年度の参加実績及び主な大会名 (参加者人数：1065名／参加大会：123大会)

- ・第22回ソチオリンピック冬季競技大会 (2014)
- ・世界フィギュアスケート選手権大会 (2014)
- ・ブラインドサッカー世界選手権大会 (2014)
- ・世界陸上 蘭・ベルギー選手団事前キャンプ (2015)
- ・世界少年野球大会 千葉大会 (2015)
- ・ラグビートップリーグクボタスピアーズ サポート (2015)
- ・ジェフユナイテッド市原・千葉 選手通訳 (2016)
- ・ジャパンウィルチェアラグビー競技大会 (2016)
- ・第3回WBSC いわき U-15 野球大会 (2016)
- ・文部科学省 スポーツ・文化・ワールド・フォーラム (2016)
- ・高円宮杯 フェンシングワールドカップ (2016)
- ・2017 冬季アジア札幌大会 (2017)



運営団体から求められた言語は英語のみならず、韓国語、中国語、スペイン語、ロシア語など多岐にわたります。

スポーツ通訳ボランティアを体験した卒業生からのメッセージ！

英語教員

経験しないとわからない「支える」スポーツ

宍戸 陽香 さん
英米語学科 2015年度卒業

参加した活動
・2014 JFA全農世界卓球東京大会
・2014 KNF世界空手道選手権
・2014 世界エアロビクス選手権

「違った角度からスポーツを見てみたい」とそんな気持ちで始めました。スポーツ通訳ボランティアでは、通訳はもちろん、書類の翻訳や日程調整、会場アナウンスなど、普段できない様々な経験をしました。

多くの人と関わる中で、自分自身を顧み、鼓舞するきっかけもなりました。スポーツ通訳ボランティアでは、通訳はもちろん、書類の翻訳や日程調整、会場アナウンスなど、普段できない様々な経験をしました。

「支える」スポーツを経験した今、今度は「伝える」スポーツをしたいと思っています。

IT企業

通訳ボランティアで学んだ +αの重要性

中野 峻 さん
イペロアメリカ学科 ブラジル・ポルトガル語専攻 2015年度 卒業

参加した活動
・2015 世界少年野球大会
・2015 ラグビー7人制東京大会

通訳ボランティア体験の中で最も記憶に残っているのは、4年生のときに参加した7人制ラグビーワールドカップのUSAチーム帯同通訳です。主な仕事内容は、チームの練習会場の確保とそのための他チームとの交渉、バス配車およびチームのスケジュール管理など多岐に亘り、正直なところ、思い描いていた通訳像とはかけ離れていました。コミュニケーションはとれて当たり前。その中でチームの要求を理解し、いかに「+α」を乗せて伝えられるかが重要でした。

通訳ボランティア体験を通して、もちろん語学力は劇的に向上しました。ですが何より、大会を成功させるために欠かせない存在である通訳ボランティアという立場に身を置くことで、責任をもって自主的に行動する力が身につきました。

日本体育協会

「選手の印象は通訳の言葉で決まる」

高橋 愛 さん
アジア言語学科 韓国語専攻 2015年度卒業

参加した活動
・ジェフユナイテッド市原・千葉
・クボタスピアーズ
・2014 千葉アカアラインマラソン

最も印象に残っている活動は、ジェフユナイテッド市原・千葉での韓国選手通訳です。試合後の記者対応の際の韓国語通訳を担当しました。

活動を始めた当初は留学で身につけた韓国語と、女子サッカー一部での経験でそれなりに出来るだろう..なんて甘い考えでしたが、通訳はそんなに簡単な仕事ではありませんでした。試合中の選手の動きやチームの流れ、監督のコメント等をメモし、韓国語を準備して通訳に臨んでいました。

スタッフの方がおっしゃっていた「選手の印象は通訳の言葉で決まる」という言葉の通り、言葉一つ一つの責任感と事前準備の大切さを学んだ活動でした。

国際協力機構

就活で胸を張れる通訳ボランティアでの経験

佐久間 大樹 さん
英米語学科 2016年度卒業

参加した活動
・2014 世界フィギュアスケート選手権
・2016 U-15 Baseball World Cup
・2017 冬季アジア大会札幌大会

大学生活の中で、最も力を入れたことは何ですか?と就職活動や大学院等への入試の面接の場面で必ず聞かれたこの質問に対して、私は決まって「スポーツ通訳ボランティアの活動です。」と、胸を張って答えることができました。

大学1年次の春休みに初めて参加して以降、4年間でメジャーなものからバラスポーツまで様々な競技に関わらせていただきました。

活動を通して、自分の知見を広げ、様々な業種・競技に関わる人と繋がり、大学生活の4年間で大きく成長する事が出来たのは、スポーツ通訳ボランティアがあったからだと確信しています。